

# 学生記者サカイの 「白門祭〜斬り! 残念!」

「白、白、白、白門祭。今年のテーマは『祭魂』マツリダマシイ。白熱します、目いっぱい!」テ言うじゃない。……でも表紙が真っ白なプログラムじゃ、全然わかりませんから……残念っ!」。指でさすって、やっと、点字みたいな『THE 35TH CHUO UNIV. HAKUMON・FES!』。「アタマ真っ白、白門祭斬り!」

……ついハナから熱くなってしまいました。10月31日〜11月3日にわたって開催された白門祭も無事終了した。そこで、拙者・学生記者サカイがギター代わりにメモとペンを携えて——思えばこれが大学最後の白門祭ウオッチングなのであります。取材日当日、まずはモノレールで中央大学・明星大学駅に参上した。すると、改札で「すいません、焼きソバいりませんか?」という声が見えれば、なんとモノレールの駅員に営業を試みる2人組。「ごめんね、もう昼食食べちゃった」とあえなく断られてはいたが、モノレールの駅員に営業活動とは、白門祭も4年

目の拙者も、初めての洗礼であった。いよいよ、今年もミニスカートのお兄様が多数出没した。ペデ下への潜入!である。今年の模擬店は、紀元前7000年頃が起源といわれる(↑トリビア)クレープが多めだった気がする。しかし全体的に度肝を抜かれるようなものは少なかった。インパクトはイマイチといったところ。残念!

そのかわりにどうか何というか、「うちのおでんはボルヴィック使用!」やら、「あのヨング様公認!ベヨングソース焼きソバ」など、小技が光っていた。

歩いていると、チャイナドレスの

お姉様を発見! 今度は女装じゃない、しかもとびきりの美人。彼女は「ピンククレープ 姫の館」の人だった。こちらは文学部・英米文学専攻4年6組の有志の出店である。文学部か……拙者も文学部だが、うちのクラスはそんな話が出なかつたなあと、少し切なくなりつつ、文字通りピンク色の生地のクレープを購入。美しい女性が売るクレープが美味しそうなのは、気のせいではあるまい。さて、拙者は昨年の白門祭で運命的な出会いを果たし、ぜひ今年も会いたいと思っているサークルがあった。その名はF・I・T。本来テニスサークルである彼らは、昨年「阪神パイガス」として、パイ投げの模擬店を出店していたのだ。しかし今年はやはりテニスサークル・サニーサイドが「パイ投げ 1回100円」を出していたし、F・I・Tも見当たらないので、もう会えないのかな……?と思うと胸がキュンとした。

だが彼らは帰ってきた。今年の流行語「ヨング様」にも負けないフレーズと共に。やはり彼らは期待を裏切らない!「世界の中心でパイを叫ぶ」がそこにはあった。「助けてく

だパイ!」の売り文句、そして1回300円で部員を指名してのパイ投げ……。求めていたものがそこにはあった。感激もひとしおである。そこで拙者もF・I・Tの会長の佐藤惟浩さんを指名して、パイを投げさせてもらうことに。すると「失礼しま〜す」と、体にレインコートを巻きつけられる。「汚れてはいけないので!」とのことだが、一体どれだけ激しいのだろう、どきどき……。会長がスタンバイする。「では、これがパイです」と渡されたソレは、パイというよりタル? 中にはなみなみと水溶き小麦粉が。しかも結構重い。しかし拙者は怯まず、気分だけは松坂大輔のつもりでパイを……投げました! ベチャツと会長の顔にヒツト。しかし部員たちは「もっともっと!」コール。それならばと、ぐりぐり……と押しつけてみる。これは……北島康介風に言うると、「チョー気持ちいい!」ですから! 今年はF・I・Tに会えないのだろうかと一瞬でも思った自分、「切腹!」というくらいスッキリです。会長曰く「F・I・Tは不滅です。来年もパイ投げを出店するのでヨロシク」だそう。来

年も来ようかしら。

手に残るパイの感触に、まだ興奮の冷めないまま、学部棟に入り展示を見ることに。特にお目当てのものもなかったの、ぶらぶらと回ってみた。写真研究部で「銀座で働くオヤジの笑顔」の写真を堪能し、地学愛好会では化石の無料プレゼントで得をして、拙者は次なる会場にたどり着いた。

失礼だが、最初はまったく期待していなかった。その名は鉄道研究会だ。しかし一步会場に入ると、そこには鉄道模型の展示。その造りの細かいこと！レールをとりまく風景にも手を抜かず、入浴剤100%使用の温泉郷・しらほねの看板があるなど、拙者も感服するような斬れが冴えていた。そこにあった鉄道模型は実際に動かせるということ、さつそくチャレンジ！「電車でGO！」よろしく出発進行。10キロ…、50キロ…、だんだん時速をあげる。おおい、いやこれは速すぎる。駅前で減速！あれ？電車がそのまま止まった。いやあ、いらぬ冷や汗をかいてしまった。無念！さて、レールの周りには電車の写真。

撮影者は「経済学部1年 石高太介」殿か。あれ、こっちの写真もあつちの写真も石高殿？聞くとこの石高殿、国分寺在住だが、レアな電車が走るとなると、どこへでも飛んでいくらしい。九州新幹線「つばめ」が開業した際も、彼は九州まで行ったそう。まだ1年生である。これからさらに立派な「鉄ちゃん」に成長することだろう…、あたたかい目



で見守っていきたい。

白門祭、というのは学部棟やペデ下、中央ステージしか見物がないと思われてはいないだろうか？それは残念なことである。一步横道に入ると、「裏白門祭」とでも言うべき異空間がそこに広がる。居合道部もそうであった。袴姿に刀も勇ましく、白門祭期間にも関わらず彼らは稽古にいそしんでいた。主将の石島

直樹殿に刀を構えていただく。居合用の模擬刀とはいえ、すごい迫力だ…。石島殿本人は「居合は見せびらかすものではないですが、裏で頑張っているの、機会があればぜひ見てください」とはにかみながら話すシャイボーイであったが。

場所を学部棟に戻す。期間限定の店もあつた。「名曲喫茶 多摩の森」もその一つ。なんと最終日・11月3日だけの開店だったのである。あなたは見たか？いや聴いたか？中央大学管弦楽部による生オーケストラを！行けなかった人は残念！ちなみに拙者はまん前の席で、紅茶とクッキーを味わいつつ「Two of Us」や『カノン』を拝聴した。しかし指揮者がいない演奏はなかなか辛いようで、足で必死にリズムをとっている様は、まさに水面下の白鳥！芸術は、まさに爆発していた…。外に出て再びペデ下を歩いている

と、大塚愛の「さくらんぼ」が聞こえてきた。テニスサークル「わかもの」のテニス試し打ちの店である。歌に合わせてボールをスマッシュ！試し打ちとはいえ、目は必死な体験者と、周りではやし立てる部員たちがふふんと眺めていたが、ふとペデ上に目をやると、まさに球拾いといった風情の部員を発見！1年生ですか？大変ですなえと声をかけると経済学部の某氏は「いえ2年生です。球拾いもすべて交代制ですよ。みんな協力しないとね」と語った。ボールが食べ物の店に飛びこんで、油まみれになったこともあるらしいが、それもまた一興とのこと。うくん見上げた心がけ。誰だ「わかもの」って1字変えたら「ぼかもの」だよな。なんて言った無礼者は！切腹！さて、4年間にわたる白門祭めぐりも、ひとまずはこれで終了である。最後に、再び愛をこめて――。

今日は楽しい白門祭。プログラムを見つつタコ焼きをほお張るの、美味しー！食べすぎかな？けど「食欲の秋」っていうじゃない？…でも！プログラムの真つ白な表紙、ソースと青ノリがついちゃって台無しですから！残念っ！

拙者…、居合の道で勝ったのは4年でたったの1度でした。切腹！